

藤森運輸株式会社

仕事を分解し組み直す事で障害者の仕事を創出
長い目で見守ることが大切

●現場の仕事を見てもらうことが雇用の第一歩

藤森運輸株式会社は、平成18年10月、本社のある岡山県児島地区の雇用開発協会から「障害者の方を積極的に多数雇用し、障害者雇用に対する深い理解を示す優良事業所」として地域貢献表彰されました。岡山物流センターに1人、倉敷配送センターに2人の知的障害者が配送業務に従事しています。

物流・運送業といえば障害者を雇用しにくいところという印象がありますが、倉敷営業所の所長代理、伊藤茂さんは「仕事を作業ごとに分解し組み直してみれば、ピッキングやロケーションに限らず空箱の清掃など、知的障害者にもできる仕事や、むしろ適している仕事もある」と言います。藤森

運輸では、それを実際に見に来てもらい、面接し本人とも話し合った上で、実習という形で現場で仕事を体験してもらってから採用するかどうかを決めます。

「障害者雇用について、社長の方針でもあるのですが、こういう仕事があります、とりあえず見てみませんか。それで仕事が合って、通うことができれば就職ということです」伊藤さんは、障害者雇用の経緯をこう説明します。

●心強い障害者と会社のパイプ役の存在

実習の内容や期間については、障害の状態や程度によっても個人差はありますが、ここで大きな力になってくれるのが、地域障害者職業センターのカウンセラーやジョブコーチ、障害者就業・生活支援センターの支援員といった人たちです。障害者がその仕事に適応できるよう障害者と会社のパ



多少の無理を言っても聞いてくれる岡野さん

イプ役になってくれます。障害者にとっては付添い人、会社にとっては受け入れ体制を整え配慮してくれる人たちです。お互いの理解不足や不慣れな状況でのトラブルにも対処してくれます。

小野さんの場合は、3カ月のトライアル雇用期間を経て雇用されました。「知的障害者の行動には、必ず意味があります。イライラしたり、突然声を出したりする時には、必ず原因があるので、その原因がわかれば周りの人は適切な対応ができます。本人も周りの人も、お互いにわからないということが問題なのです。そんな間をつなぐのがジョブコーチなんです」とジョブコーチの幸務さんは言います。

●「長い目で見守る」ことが成功の要因に

仕事をしたい障害者と、障害者にできる仕事があった会



障害者雇用を語る
倉敷営業所の所長代理の伊藤茂さん



岡山障害者職業センター
ジョブコーチ
幸務可奈子さん

現場レポート1

岡山物流センターで自動車部品を入れる箱の清掃業務

武藤 哲さん
知的障害を伴う自閉症



平成17年に面接を受け、3カ月の職場実習後、採用されました。専門学校に通いパソコンの操作を習得しています。パターン化された単純作業は得意。就業時間は9時から16時まで。屋外で1人で作業をすることが多いが、「知らない人に声をかけられるとリズムが崩れてしまうんです」と言います。

仕事の指示を出す人は1人に特定して、新しい刺激がなるべく入らない環境をつくって仕事をしています。物流センターには、自宅から電車と自転車と通っています。仕事をしていて一番の楽しみは「給料をもらうこと」、貯金をして1人で旅行にも行きます。「北海道で一人暮らしを試みたい」というのが目下の夢と言います。

社、それらを支援する人がいて雇用関係が成立する。藤森運輸の障害者雇用に対するこういった考え方が成功の大きな要素になっています。

また、もう一つは、「長い目で見守る」ということです。障害者に限らず、人は一度の体験ですべてがわかるわけではありません。ある程度時間をかければ見えてくることがあります。チャンスが与えられれば伸びる才能もあります。

「何も特別なことをしているわけではありません。仕事に合った人材がいれば障害者も区別はしません。指導の仕方は、わからないところはやって見せます。なぜかを考えさせて実際にやらせ、できれば誉めます。すぐにできることは求めません。雇用に関してはこれからも広く、チャンスは与えるということです」（伊藤茂さん）

「地域とともに栄え、地域に信頼される企業」「社員の人格を尊重し、才能を伸ばすことで事業の発展を図る」藤森運輸の企業コンセプトが、こんなところにも形になっています。



戸外での空箱の清掃作業中の武藤さん



マイベースの小野さんは自動車部品の
入庫作業

雇用管理の
ポイント作業の指示を出すのは
1人と決めています

岡山物流センター
センター長 岡田希一さん



作業環境の厳しい中で、しっかり仕事をしてくれます。話しかけられたりするのが苦手で、時にはパニックに陥るようです。予期しない出来事には不安を感じるんですね、作業の指示を出す場合には決めた1人にやらせています。その点は事務所の全員が気を使っています。

最初はジョブコーチとつきっきりで話し合いながらやってきましたが、少しずつ慣れてきて、今では話もしますし、自分のやりたいこと、できることをはっきり言うようになりました。仕事の時間もきっちりしています。駅からは自転車でここまで通勤しています。

企業プロフィール

所在地	岡山県倉敷市
事業所数	本社、営業所、センター等5カ所
常用雇用者数	180名
雇用障害者数	3名（一般作業）

Close
Up地域障害者職業センター、障害者就業・
生活支援センター等

地域には、障害者の就職活動の支援や就職後のフォローアップを行っている地域障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターなどの支援機関があります。これらの支援機関には、障害者職業カウンセラーや就労支援担当者などの専門スタッフが配置され、障害者雇用に関する事業主からの相談にも応じています。障害者雇用を進める際にこれらの支援機関と連携することで事業主側の負担が軽減されます。

トライアル雇用/ジョブコーチ支援

トライアル雇用とは、障害者の受け入れに不安があるなどの場合に、3カ月程度試行的に雇用することができる制度です。一定の要件を満たせば事業主に奨励金が支給されます。はじめて障害者を雇用する場合には活用しやすい制度です。（窓口はハローワーク）

ジョブコーチ支援とは、障害者雇用の専門スタッフであるジョブコーチ（職場適応援助者）が事業所に出向き、障害者や事業主のサポートを行う事業です。知的障害者や精神障害者を雇用する場合や障害者雇用の経験が浅い場合には有効です。（窓口は地域障害者職業センター等）

現場レポート2

倉敷配送センターでピッキング（照合作業）、
ロケーション（配置作業）など出荷処理作業

岡野 佑さん
広汎性発達障害・
アスペルガー症候群



養護学校を卒業後、母親および学校の先生と共にハローワークを通じて就職活動を行いました。広汎性発達障害のため、手帳が交付されず、就職活動が難航しましたが、1カ月の実習期間を経て倉敷配送センターに就職しました。作業量が多く出荷に間に合わなかったことも過去にはあったようですが、今はもう慣れて次の仕事に備えて体力づくりにも精を出しています。配送センターで働きはじめて足掛け4年、インターネットを楽しんで、昼休みには本をよく読むという読書家でもあります。

同センターで自動車部品の
ダンボールの入庫・出庫作業

小野伸也さん
知的障害



倉敷配送センターに来る前に2カ所で就業経験のある小野さんは、一見して照れ屋です。緊張すると口数も少なく、ぶっきらぼうに見えます。それが気難しい人と映る時もありますが、「女性が重い荷物を棚に上げるのを手伝ってくれるやさしいところがあり、昼休みも1人で仕事をしていることもあるなど、マイベースだけけど仕事には責任を持ってしてくれています」と、周囲の人の評判は良いようです。平成16年10月、3カ月間の実習の後トライアル雇用（3カ月間）で今の職場に入りました。就業時間は9時から16時で、本人との話し合いで決めています。